

会議等名	令和7年第5回海老名市外部評価委員会
日 時	令和7年10月20日（月）14：00～15：30
場 所	海老名市役所 6階 第3委員会室
出席者	外部評価委員：谷村委員長、市野澤副委員長、田中委員、 石井委員、金岡委員、永野委員、酒井委員、日吉委員、 青木委員、塩脇委員、瀬戸委員（以上11名出席） （欠席：阿部副委員長） 事務局：石田財務部参事兼企画財政課長、片山政策経営係長、下川主事
1 開会 2 あいさつ （1）事務局あいさつ （2）谷村委員長あいさつ 3 議題 （1）令和7年外部評価委員会報告書（案）について 【委員からの意見・質問】 ○評価に対する評価ということで、事業そのものの評価ではなく、正しい評価をしているかどうかということの評価しなければならなかったと思うが、グループによって評価が異なっていた。報告書を出すことについては、「評価が異なっていた」点を形にまとめた方が良いと思う。 ○報告書を出すことには反対であるが、皆が報告書を出すことに賛成であるならば、報告書を出す場合は名称の変更をした方が良い。「報告書」という名称だと、試行であるということがわかりにくい。 ○3ページ目「外部評価委員会活動のまとめ」の項目に、試行であることの位置づけを5行ほど明記するように文章を加えてもらった。 ○「外部委員会活動報告書」ではなく「外部評価委員会のまとめ」くらいの標題でよいのではないか。 ○外部評価委員会で活動した結果については、市民への責任として公表する必要があると思う。ABCという具体的な評価を外すことには賛成である。附属資料のなかではグループごとに評価軸が異なり、それぞれ重視した事項についてまとめているので、この内容を各グループで再度確認したい。また、報告書を読めば内容がわかるような状態で公表することが大事だと考える。 ○評価方法を変えたことは、市にとって意味があったのか。市が評価を変えたが、変えたことについてどのように考えているかが報告書に入っていない。	

(事務局回答)

今回評価方法を変更したのは、20 プランに位置づけられているものが「予算事業」と「個別計画」の2種類あり、そのうちの「予算事業」については評価が終了したため、「個別計画」を評価するとしたことによる。個別計画を策定する際、前計画の振り返りを行うが、そこに外部の目が入っていないことが課題であった。その点を外部評価委員会で評価いただき、その評価意見を所管課に伝えることで活用していきたい。

○活動結果を公表することは必要だと思う。今回の評価がうまくいかなかったのは、施策と事業との関係が非常に不明確であったからではないか。本当は施策のところにも市民の目線が入っていることが必要だと思う。計画の評価については、施策と政策に対して事業がきちんと配置されているかを見ることが大切である。今回は評価の方法を変えた第1回目だが、評価ができることが大切なのではなく、本質的な評価ができたかが大切である。

○今回違和感があるのが、市が担う農業分野と、民間が担う農業分野が分かれておらず、誰の責任で行うのかが見えない。だから評価しづらいというのがある。市と外部団体が協力して行う施策もあり、限界を感じた。今までは予算事業であったので、市の活動として評価できたが、市の活動として評価できなかったのが曖昧になった原因だと考える。

○具体的に評価した事業だと、食の創造館との給食の問題は教育委員会や指定管理者が関わっており、評価を行うことが難しく感じた。農業に関することが多岐にわたるという学びになった点は意味があったと思っている。

○農業振興プランを知らない市民が多いと思う。この計画があるということをも市民に知ってもらい、それをまとめて報告を上げているということに意味があると感じた。農業者として、評価対象となったことはうれしかった。このような計画があることを市民に知らせることは、農業者にとって一つの柱になって勇気をもらえらると思う。

○提案として、来年度以降は計画に付随する予算を事業別にすべて出してもらうのが良いのではないかと。予算も単年度の計画であるから、予算も計画の一部になっているといえる。予算決算を確認することで、計画の進捗等もある程度の推測がつくと思われる。ただ、所管課に負担となるが、改めて作業をしてもらう必要がある。

○同意見。重要施策の中にちゃんと事業が紐づけられているかを考えてもらう必要がある。大変だと思うが、この点がずれるからうまくいっていないのではないかと。

	○何のために評価を行ったかがぼやけている。今回は3年のタイムラグがある中間評価の評価を行った。評価作業を行ったが、事業を縮小したものや、事業自体を行っていないものがある。次回は実績をすべて挙げた最終評価の審議を行わないと、報告書にはできないと考える。昨年度までのよい評価制度を続けてきた実績があると思うが、その点が活かされていない。加えて、計画には個別の審議会があると認識している。これと並行して外部評価委員会で評価作業を行うと二重の評価になるのではないか。審議会は計画策定のために評価を行うと位置づけられるが、外部評価委員会で行う評価も次期計画策定のためである。同じ作業を別の組織で行う意味合いは低いのではないか。来年も同様の方法で評価をするのであれば、策定のための審議会がないものを取り上げないと、混乱すると思う。 ○第一次産業に特化して評価したのは初めてである。昔から行われている農業については、市が少し離れて対応を取っているように感じた。実際の農業をやっている人からずれているのではないか。 ○最近は入りやすいところから農業に入るのもよいのではないかと感じている。取り上げてもらったということが前進していると感じた。数値で評価するのであればA Iでよいのではないかとと思う。	
	(事務局回答) 農業振興プランについても、当初は最終報告の評価を考えていたが、計画策定と最終評価を同時並行で行うということで、すでに評価の終わっている中間評価を利用した。委員の指摘のとおり、古い評価を使ったことは課題と感じている。	
	○予算もなく、実績も見えない。ただ、所管課の評価を見て意見を述べたという感覚。ただ、計画や事業に目を向けてもらったことがうれしいということがあれば作業の意味はあるかと思うが、評価を行ったという意識は薄い。	
	○計画の時点で、年次ごとのなりたい姿や目標とする予算額等が入っていると評価がしやすかったと思う。それであれば、中間報告でも評価ができたのではないか。今回の中間報告では何の数値もなく、評価が難しかったが、これは他の市民が見ても同様の意見だろう。中間報告を作る際は、市民が見てどう思うかを意識して作ることを意識していただきたいと思う。今回の一番の課題は評価軸がずれたことにある。班で分けたのが悪かったのか、事務局で修正をするのが良かったのか、反省点をまとめて来年に活かしていければと思う。計画の評価は難しいという意見はあるが、ニーズがあり、事務局も意味があると考えるのであれば、評価プロセスを検討して継続することは良いと思う。	
	○それぞれのグループが評価を出していったが、それぞれのグループが持ち寄って各グループがこういう話で評価をしているという、担当者同士でのすり合わせはなかったのか。	

(事務局回答)

事務局の認識としては、書記としてグループに入るという認識でいた。今回、行政評価の経験の浅い職員が多く、グループ間での統一が図れず、食い違いの認識がなかったのだと思い反省している。来年度は対策を考えたい。

○来年度以降、このやり方を続けるとすると、委員の顔ぶれが変わったタイミングで同じことが起こる気がする。事務局の方で少し舵をとってもらいたい。

○計画について、市長や各部のトップ、議会の意向等で作成するものも多くある。そのような計画には金額等は入れられないだろう。評価という観点では規模金額が出ていないと無理である。そういった計画についてはこの委員会で評価ができないという問題が出るだろう。

○計画に強いメッセージがない。きちんとした根幹のメッセージに沿った計画を作り、それに向けて事業を進めるべきではないか。このままの計画では評価は厳しく、違和感を持ったまま評価を行うことになる。一番良いのは、外部評価委員が事業をきちんと見て、その事業を評価すればよいとするのがいいと思う。

○市長から、委員には批判より提案をしてもらいたいとの言葉をもらった。そのため、今回は提案型で評価を行った。提案型で行った旨については必ず所管課に伝えていただきたい。来年以降、計画策定と評価のスケジュールを明確にすることが必要である。計画の審議会と外部評価委員会の二つの組織で見ることに整合性をどうとるのが難しい点ではあるが、スケジュールを明確にすることで外部評価委員会の位置づけが見えてくることもあると思う。加えて、事務局で様々な計画を同一の目線で評価できる尺度の基準を策定してもらいたい。その際管理をするためには、調書を作成する必要があると思う。前半のような調書があれば、書面審査も可能であり、実りあるヒアリングが可能となる。そのため、ひな形をしっかりと作成することが必要である。

(2) その他

○「今年度の外部評価の反省」について、外部評価委員会自体の反省ではないので、タイトルを修正してもらいたい。また、今回の評価を受けて事務局がどのようなアクションを取るのかを入れるべきではないか。総括意見の中に「企画財政課で評価方法を検討いただきたい」等入れる必要があると考える。今年度は評価報告書になっていないこともあり、今年度の反省点の記載をいただきたい。

○「3 外部評価委員会活動のまとめ」の中に「4 今年度の外部評価の反省」、「5 令和7年度外部評価を通じての総括意見」を入れるのがいいのではないか。

(事務局回答)

この報告書に今回の意見を盛り込むほか、今年度は試行した旨を明記する形で修正したい。

○試行して、うまくいかなかったということを明記した方が前向きに取り組めるのではないかと。1年かけて問題点を見つけたという形でまとめるのはいかがか。

○今回の試行が今後の評価積み上げの足掛かりとなり最終的によりよい評価基準ができるのであれば意味があると思う。次回の評価でまた新たな問題が出てくると思うが、その都度解決し、計画の望ましい姿や評価の必要性について、良い評価ができるようにするという形が試行では望ましい。

○良い計画にする評価の仕方を模索することが必要だと思う。今後評価のしやすい計画のひな形を作り、職員に周知をすることができれば評価もやすく市民が見やすい計画になると考える。今回は評価の在り方を模索していくという結びにすると、良いのではないかと。

○今まで市のホームページに掲載していた計画は、PDCAサイクルに従って行った予算事業に対する評価の報告書である。その中に今回の報告書を書けると違和感があるのではないかと。そのまま掲載するのではなく、載せ方の検討をしてもらいたい。

○評価が失敗だとしてもホームページに掲載することが必要である。

○課題が見つかったなどの建設的な表記にする方がよいのではないかと。

○真に何を評価しなければならないかが抜け落ちていると思う。外部評価委員会では分析した事業評価しかできない。事業評価をちゃんとしないと、どこまでやるかを考えながらの評価になり、毎回同じ議論になる。

○報告書の中で「必要性」「課題分析」の項目があるが、計画に対する評価の項目としてはおかしいと思う。次年度は検討が必要である。

○昨年度のように計画の評価をした旨を丁寧に説明するページを、図等を設けて作成するとよいのではないかと。

(事務局回答)

案を作成し、メールでお送りする。

4 閉会